

「課題解決型高度医療人材養成プログラム」における工程表

申請担当大学名	昭和大学
連携大学名	無
事業名	大学と地域で育てるホームファーマシスト

① 本事業終了後の達成目標

	本事業終了後の達成目標
達成目標	<ul style="list-style-type: none"> ◆ 在宅チーム医療で積極的に活躍できる薬剤師を養成する全国モデルとなり得る、体系的・段階的な学部連携教育カリキュラムを構築し、円滑に実施する。 ◆ 在宅チーム医療に求められる専門性の高い態度・知識・技能をバランスよく修得し、地域の在宅チーム医療スタッフの一員として多職種と連携協働しながら、患者のQOLの維持・向上を目指し、適切な治療・ケア・支援を積極的に実践できる医療人を輩出する。 ◆ 地域での在宅チーム医療教育に必要な学生指導力を修得した薬剤師・医療スタッフを養成することにより、学生教育の充実・質の向上を図ることができる。

② 年度別のインプット・プロセス、アウトプット、アウトカム

		H26年度	H27年度	H28年度	H29年度	H30年度
インプット ・ プロセス (投入、 入力、 活動、 行動)	定量的なもの	1. 運営体制 ①在宅チーム医療教育推進委員会(以下、推進委員会)、在宅チーム医療教育推進室(以下、推進室)、地域医療教育ワーキンググループ(以下、WG)の設立 ②推進委員会:3回開催 ③事業実施説明会の開催 2. カリキュラム関連 ①カリキュラム等検討・PBLシナリオ作成ワークショップの開催 ②1年次カリキュラムのPBLチュートリアルシナリオ作成、電子ポートフォリオシステム等を作成する 3. 指導薬剤師養成プログラムの検討を開始 4. 教育ツール(多機能シミュレーター・学習用DVD等)の開発準備 5. ITシステム(電子ポートフォリオシステム等)の構築準備 6. 事業の公開 ・ホームページ新規立ち上げ	1. 運営体制 推進委員会:10回開催、WGの運営 2. カリキュラム関連 ①1年次カリキュラム新規開講(200名) ・4学部連携PBLチュートリアル、福祉施設体験実習、地域高齢者訪問実習の実施 ・PBLファシリテータ養成・シナリオ作成ワークショップ ②2～4年次カリキュラム準備 ・カリキュラム検討ワークショップ開催 ③6年次カリキュラムの拡充 ・学部連携在宅チーム医療実習の実施 ・スケジュール作成ワークショップ、新規説明会の実施 3. 指導薬剤師養成プログラムの準備 ・実技研修 ・PBLチュートリアル(多職種) 4. 教育ツール(多機能シミュレーター・学習用DVD等)の開発 5. ITシステム(電子ポートフォリオシステム等)の構築 6. 事業の公開	1. 運営体制 推進委員会:10回開催、WGの運営 2. カリキュラム関連 ①1年次カリキュラム開講(200名) ・平成27年度と同様に実施 ②2年次カリキュラム新規開講 ・在宅医療の倫理の実施 ③3～4年次カリキュラム準備 ・SP養成ワークショップ開催、トライアル実施 ・カリキュラム検討・PBLシナリオ作成ワークショップ開催 ④6年次カリキュラムの拡充 ・実習地域を拡大し、平成27年度と同様に実施 3. 指導薬剤師養成プログラムの開始 ・実技研修 ・PBLチュートリアル(多職種) 4. 教育ツール(多機能シミュレーター・学習用DVD等)の開発・検証・改善 5. ITシステム(電子ポートフォリオシステム等)の構築・検証・改善 6. 事業の公開(中間報告会等) 7. 中間評価の実施(外部評価を含む)	1. 運営体制 推進委員会:10回開催、WGの運営 2. カリキュラム関連 ①1年次カリキュラム開講(200名) 2年次カリキュラム開講 ・平成28年度と同様に実施 ②3年次カリキュラム新規開講 ・高齢者コミュニケーション演習、在宅医療支援実習の実施 ③4年次カリキュラム準備 ・カリキュラム検討・PBLシナリオ作成ワークショップ、トライアル実施 ④6年次カリキュラムの拡充 ・実習地域を拡大し、平成28年度と同様に実施 3. 指導薬剤師養成プログラムの実施 ・平成28年度と同様に実施 ・カリキュラム検討・シナリオ作成ワークショップ 4. 教育ツール(多機能シミュレーター・学習用DVD等)の開発・検証・改善 5. ITシステム(電子ポートフォリオシステム等)の構築・検証・改善 6. 事業の公開	1. 運営体制 推進委員会:10回開催、WGの運営 2. カリキュラム関連 ①1年次カリキュラム開講(200名) 2年次カリキュラム開講 3年次カリキュラム開講 ・平成29年度と同様に実施 ②4年次カリキュラム新規開講 ・在宅シミュレーション演習・実習、4学部連携PBLチュートリアル ③6年次カリキュラムの拡充 ・実習地域を拡大し、平成29年度と同様に実施 3. 指導薬剤師養成プログラムの実施 ・実技研修 ・PBLチュートリアル(多職種) 4. 教育ツール(多機能シミュレーター・学習用DVD等)の完成 5. ITシステム(電子ポートフォリオシステム等)の完成 6. 事業の公開(シンポジウム、事業報告書等) 7. 総合評価の実施(外部評価を含む)
	定性的なもの	1. 本事業の目的、取組内容及びその方針等を全学的に伝達する	1. 本事業を外部に開示する体制を整え、教育カリキュラム等の取組内容を地域に発信する 2. カリキュラムを適切に実施し、ホームファーマシスト育成に向けた大学教育の展開	1. 本事業を外部に開示する体制を整え、教育カリキュラム等の取組内容を地域に発信する 2. カリキュラム及び指導薬剤師養成プログラムを適切に実施し、ホームファーマシスト育成に向けた大学教育の展開 3. カリキュラム内容等の適時見直し・改善及び本事業のアウトカムの検証	1. 本事業を外部に広く開示し、教育カリキュラム等の取組内容を地域に発信する 2. カリキュラム及び指導薬剤師養成プログラムを適切に実施し、ホームファーマシスト育成に向けた大学教育の展開 3. カリキュラム内容等の適時見直し・改善及び本事業のアウトカムの検証	1. 本事業を外部に広く開示し、教育カリキュラム等の取組内容を全国に発信する 2. カリキュラム及び指導薬剤師養成プログラムを適切に実施し、ホームファーマシスト育成に向けた大学教育の展開 3. カリキュラム内容等の評価及び本事業アウトカムの検証

アウトプット (結果、出力)	定量的なもの	<p>1. 運営体制 ①推進委員会、推進室、WGの設立 ②推進委員会:3回開催 ③事業実施説明会の開催 ④WGの運営</p> <p>2. カリキュラム関連 ①1～6年次カリキュラムの具体的なスケジュールの概要を作成する ②1年次カリキュラムのPBLチュートリアルシナリオ作成、電子ポートフォリオシステム等を作成する</p> <p>3. 指導薬剤師養成プログラムの概要作成</p> <p>4. 教育ツール(多機能シミュレーター・学習用DVD等)の開発準備を開始</p> <p>5. ITシステム(電子ポートフォリオシステム等)の構築準備を開始</p> <p>6. 事業の公開 ・ホームページ新規立ち上げ</p>	<p>1. 運営体制 ①推進委員会:10回開催 ②WGの運営</p> <p>2. カリキュラム関連 ①1年次カリキュラム(200名)を新規開講し、円滑に実施する ②2～4年次カリキュラムの具体的な内容を準備・検討する ③6年次カリキュラムを円滑に実施するとともに、実習地域を拡充する</p> <p>3. 指導薬剤師養成プログラムのトライアル等を行い、次年度以降実施するための基盤作成</p> <p>4. 教育ツール(多機能シミュレーター・学習用DVD等)の開発</p> <p>5. ITシステム(電子ポートフォリオシステム等)の構築</p> <p>6. 事業の公開</p>	<p>1. 運営体制 ①推進委員会:10回開催 ②WGの運営</p> <p>2. カリキュラム関連 ①1年次カリキュラム(200名)を開講し、円滑に実施する ②2年次カリキュラムを新規開講し、円滑に実施する ③3～4年次カリキュラムの具体的な構築を行う ④6年次カリキュラムを円滑に実施するとともに、実習地域を拡充する</p> <p>3. 指導薬剤師養成プログラムを開始する</p> <p>4. 教育ツール(多機能シミュレーター・学習用DVD等)の開発・検証・改善</p> <p>5. ITシステム(電子ポートフォリオシステム等)の構築・検証・改善</p> <p>6. 事業の公開(中間報告会等)</p> <p>7. 中間評価の実施(外部評価を含む)</p>	<p>1. 運営体制 ①推進委員会:10回開催 ②WGの運営</p> <p>2. カリキュラム関連 ①1年次カリキュラム(200名)、2年次カリキュラムを開講し、円滑に実施する ②3年次カリキュラムを新規開講し、円滑に実施する ③4年次カリキュラムの具体的な構築を行う ④6年次カリキュラムを円滑に実施するとともに、実習施設を拡充する</p> <p>3. 指導薬剤師養成プログラムの円滑な実施</p> <p>4. 教育ツール(多機能シミュレーター・学習用DVD等)の開発・検証・改善</p> <p>5. ITシステム(電子ポートフォリオシステム等)の構築・検証・改善</p> <p>6. 事業の公開</p>	<p>1. 運営体制 ①推進委員会:10回開催 ②WGの運営</p> <p>2. カリキュラム関連 ①1年次カリキュラム(200名)、2年次カリキュラム、3年次カリキュラムを開講し、円滑に実施する ②4年次カリキュラムを新規開講し、円滑に実施する ③6年次カリキュラムを円滑に実施するとともに、実習施設を拡充する</p> <p>3. 指導薬剤師養成プログラムの円滑な実施</p> <p>4. 教育ツール(多機能シミュレーター・学習用DVD等)の開発・検証・改善</p> <p>5. ITシステム(電子ポートフォリオシステム等)の構築・検証・改善</p> <p>6. 事業の公開(シンポジウム、事業報告書等)</p> <p>7. 総合評価の実施(外部評価を含む)</p>
	定性的なもの	<p>1. 本事業の目的、取組内容及びその方針等を全学的に周知する</p>	<p>1. 本事業を外部に開示するための体制を整え、教育カリキュラム等の取組内容について、地域の認知を得る</p> <p>2. カリキュラムを適切に実施し、ホームファーマシスト育成に向けた大学教育の推進</p>	<p>1. 本事業を外部に開示するための体制を整え、教育カリキュラム等の取組内容について、地域の認知を得る</p> <p>2. カリキュラム及び指導薬剤師養成プログラムを適切に実施し、ホームファーマシスト育成に向けた大学教育の推進</p> <p>3. カリキュラム内容等の適時見直し・改善及び本事業のアウトカムの検証</p>	<p>1. 本事業を外部に広く開示し、教育カリキュラム等の取組内容について、地域の認知を得る</p> <p>2. カリキュラム及び指導薬剤師養成プログラムを適切に実施し、ホームファーマシスト育成に向けた大学教育の推進</p> <p>3. カリキュラム内容等の適時見直し・改善及び本事業のアウトカムの検証</p>	<p>1. 本事業を外部に広く開示し、教育カリキュラム等の取組内容について、全国に周知する</p> <p>2. カリキュラム及び指導薬剤師養成プログラムを適切に実施し、ホームファーマシスト育成に向けた大学教育の推進</p> <p>3. カリキュラム内容等の評価及び本事業アウトカムの検証</p>

アウトカム (成果、効果)	定量的なもの	<p>1. 運営体制</p> <ul style="list-style-type: none"> ・推進委員会の開催及びWG運営により、本事業の円滑で効果的な実施体制の整備 ・事業実施説明会、ワークショップ等の開催により、全学的に本事業の目的、取組内容及びその方針、到達目標に対する共通認識を醸成 	<p>1. 運営体制</p> <ul style="list-style-type: none"> ・推進委員会の開催及びWG運営により、本事業の円滑で効果的な実施体制の維持、問題点抽出・改善策の考案 ・ワークショップ等の開催により、全学的に本事業の取組内容及びその方針、到達目標に対する共通認識を醸成 <p>2. カリキュラム関連(学生が修得する態度・知識・技能)</p> <p>①患者と家族の思いに共感する:1年(200名)</p> <p>②患者を支える仕組みと技能を知る:1年(200名)</p> <p>③在宅チーム医療の問題を共有する:1年(200名)</p> <p>④地域の多職種のスタッフと連携し、患者とその家族を支える:6年(選択者数)</p>	<p>1. 運営体制</p> <ul style="list-style-type: none"> ・推進委員会の開催及びWG運営により、本事業の円滑で効果的な実施体制の維持、問題点抽出・改善策の考案 ・ワークショップ等の開催により、全学的に本事業の取組内容及びその方針、到達目標に対する共通認識を醸成 <p>2. カリキュラム関連(学生が修得する態度・知識・技能)</p> <p>①患者と家族の思いに共感する:1年(200名)・2年(200名)</p> <p>②患者を支える仕組みと技能を知る:1年(200名)</p> <p>③在宅チーム医療の問題を共有する:1年(200名)</p> <p>④地域の多職種のスタッフと連携し、患者とその家族を支える:6年(選択者数)</p> <p>3. 指導薬剤師及び医療スタッフによる適切な学生指導の体制整備</p>	<p>1. 運営体制</p> <ul style="list-style-type: none"> ・推進委員会の開催及びWG運営により、本事業の円滑で効果的な実施体制の維持、問題点抽出・改善策の考案 ・ワークショップ等の開催により、全学的に本事業の取組内容及びその方針、到達目標に対する共通認識を醸成 <p>2. カリキュラム関連(学生が修得する態度・知識・技能)</p> <p>①患者と家族の思いに共感する:1年(200名)・2年(200名)</p> <p>②患者を支える仕組みと技能を知る:1年(200名)</p> <p>③在宅チーム医療の問題を共有する:1年(200名)</p> <p>④患者と家族のナラティブに応える:3年(200名)</p> <p>⑤在宅患者を支える技能を習得する:3年(200名)</p> <p>⑥地域の多職種のスタッフと連携し、患者とその家族を支える:6年(選択者数)</p> <p>3. 指導薬剤師及び医療スタッフによる適切な学生指導の実施</p>	<p>1. 運営体制</p> <ul style="list-style-type: none"> ・推進委員会の開催及びWG運営により、本事業の円滑で効果的な実施体制の維持、問題点抽出・改善策の考案 ・ワークショップ等の開催により、全学的に本事業の取組内容及びその方針、到達目標に対する共通認識を醸成 <p>2. カリキュラム関連(学生が修得する態度・知識・技能)</p> <p>①患者と家族の思いに共感する:1年(200名)・2年(200名)</p> <p>②患者を支える仕組みと技能を知る:1年(200名)</p> <p>③在宅チーム医療の問題を共有する:1年(200名)</p> <p>④患者と家族のナラティブに応える:3年(200名)・4年(200名)</p> <p>⑤在宅患者を支える技能を習得する:3年(200名)</p> <p>⑥在宅チーム医療実践の基盤を構築する:4年(200名)</p> <p>⑦地域の多職種のスタッフと連携し、患者とその家族を支える:6年(選択者数)</p> <p>3. 指導薬剤師及び医療スタッフによる適切な学生指導の実施</p> <p>4. 教育ツールの公開</p> <p>5. ITシステムの公開</p>
	定性的なもの			<p>1. 在宅チーム医療で積極的に活躍できる薬剤師を養成する体系的・段階的な学部連携教育カリキュラムの提示</p> <p>2. 本事業にて構築した教育カリキュラムにより育成された少人数の学生が、地域の在宅チーム医療スタッフの一員として多職種と連携協働しながら、患者のQOLの維持・向上を目指し適切な治療・ケア・支援に積極的に参加できる</p>	<p>1. 在宅チーム医療で積極的に活躍できる薬剤師を養成する体系的・段階的な学部連携教育カリキュラムの提示</p> <p>2. 本事業にて構築した教育カリキュラムにより育成された少人数の学生が、地域の在宅チーム医療スタッフの一員として多職種と連携協働しながら、患者のQOLの維持・向上を目指し適切な治療・ケア・支援に積極的に参加できる</p> <p>3. 地域での在宅チーム医療教育に必要な学生指導力を修得した薬剤師・医療スタッフが積極的に参加し、学生教育の質が向上する。</p>	<p>1. 在宅チーム医療で積極的に活躍できる薬剤師を養成する体系的・段階的な学部連携教育カリキュラムが、全国のモデルの一つとなる</p> <p>2. 本事業にて構築した教育カリキュラムにより育成された学生が、地域の在宅チーム医療スタッフの一員として多職種と連携協働しながら、患者のQOLの維持・向上を目指し適切な治療・ケア・支援に積極的に参加できる</p> <p>3. 地域での在宅チーム医療教育に必要な学生指導力を修得した薬剤師・医療スタッフが主体的に指導し、学生教育の質が向上する。</p>

③ 推進委員会所見に対する対応方針

要望事項	内容	対応方針
①	事業期間中は、PDCAサイクルによる工程管理を行った上で、全国の模範となるよう体系的な教育プログラムを展開すること。その際、履修する学生や医療従事者等のキャリアパス形成につながる取組や体制を構築すること。	事業期間中は、PDCAサイクルに基づく工程管理を徹底し、計画的に事業を推進し、在宅チーム医療教育推進委員会や関連するワーキンググループによる討議やワークショップ、学生アンケートなどで、カリキュラムの定期的な検証、学内外の評価等を実施し、ブラッシュアップに努める。本事業にて構築する教育カリキュラムについては、低学年からの積み上げ式のものとするとともに、患者・家族のナラティブをくみつつ、専門的な観点から課題の発見・解決・実践に結びつく、全国のモデルとなり得る実際的なものとする。本事業により、学生から地域医療の指導者まで継続的に学習する一貫した在宅チーム医療教育システムを構築する。
②	事業の実施に当たっては、学長・学部長等のリーダーシップのもと、責任体制を明確にした上で、全学的な実施体制で行うこと。また、地域医療の充実やチーム医療の推進の観点からも、学外の有識者にも積極的に参画いただき、事業の構想を実現できる体制を構築すること。	昭和大学では、学長・各学部長のリーダーシップのもと、全学をあげて本プロジェクトを推進する。学内に、プロジェクト運営の主体を担う在宅チーム医療教育推進委員会室を設置し、また、全学年、全学部での体系的、段階的カリキュラムの構築や教員の参加を、学長から全学部に指示し、その進行状況を定期的に報告・検証する体制を整えている。在宅チーム医療教育推進委員会やワーキンググループには、4学部(医・歯・薬・保健医療学部)及び富士吉田教育部教員とともに、学外の多職種の代表者が参加し、事業の構想を実現できる運営の体制を整えている。
③	事業期間終了後も各大学において事業を継続することを念頭に、具体的な事業継続の方針・考え方について検討すること。また、多くの大学に自らの教育改革を進める議論に活用してもらうため、選定大学が開発・実践する教育プログラムから得られる成果等を、可能な限り可視化した上で、地域や社会に対して分かりやすく情報発信すること。	事業期間終了後も、本事業により構築したカリキュラムを継続的に開講する方針である。また、本事業の成果を広く社会に還元するために、ホームページの開設及び学会発表等による情報の発信を行うとともに、本事業にて開発する多機能シミュレーター、ITシステム(電子ポートフォリオ等)や学習用DVD等については、在宅チーム医療教育に広く活用できる教育ツールとして公開をする。

④ 推進委員会からの主なコメントに対する対応方針

推進委員会からの主なコメント(改善を要する点、留意事項)	対応方針
● 充実を要する点 ・教育プログラムを実施する範囲が広域にわたるので、病院、薬局等との連携体制を適切に整備する必要がある。	病院と地域の医療連携の学習の場として、昭和大学の附属病院と、山梨県内3病院(山梨赤十字病院、富士吉田市立病院、山梨市立牧丘病院)を実習施設として協力を依頼している。上記の病院周辺の地区薬剤師会、東京都・神奈川県・山梨県薬剤師会への協力依頼を行い、同地域の薬局の代表者が本プロジェクトの在宅チーム医療教育推進委員会やワーキンググループに加わっている。
● 充実を要する点 ・市場にあるOTC薬、サプリメント、医療器具などの正確な知識を団体や業界と連携して十分活用できる教育が必要と思われる。また、医師会とセルフメディケーションにおける共通の考え方、認識をどのように確保していくか課題がある。	学内のカリキュラムを整備し、地域薬剤師会等と連携し、授業の中でOTC薬・サプリメント・医療器具等の知識の教育を行う予定である。また、大学近隣の大森医師会及び東京都医師会、富士吉田医師会及び各地域薬剤師会に所属する、医師・薬剤師が本プロジェクトに参加しており、今後これらの委員と協力して、地域のセルフメディケーションの支援におけるチーム医療の在り方について、コンセンサスを構築していく予定である。
● 充実を要する点 ・地域が広範囲であり担当者の負担は大きい。実施する際の関係者の連携を図る役割を担う在宅医療教育支援室の充実が必要と考える。	在宅チーム医療教育推進室(5名)を整備するとともに、4学部(医・歯・薬・保健医療学部)及び富士吉田教育部教員と学外の多職種の代表者が参加した在宅チーム医療教育推進委員会(25名)、6ワーキンググループ(延べ82名)を設置し、運営の体制を整えている。
● 充実を要する点 ・評価体制に外部評価者を入れるべきと考える。また、在宅は充実しているが、プライマリケアの項目が不足していると思われるので考慮されたい。	評価体制の一つとして外部評価者による第三者評価小委員会を設置し、中間評価(3年目を目途に)及び総合評価(事業最終年度)を実施し、本取組に対する評価と提言を受ける。また、地域チーム医療の学習として、在宅医療に関連するカリキュラムを構築しているが、在宅医療を円滑に実施するためのプライマリケアの学習は必須であり、各カリキュラムの中に取り入れる。
● 留意事項 ・指導薬剤師プログラムをどのように行うか、もう少し明確にする必要がある。	在宅チーム医療教育において指導に当たる薬剤師を対象に、指導薬剤師養成ワーキンググループを中心に、在宅医療の現場で活躍する薬剤師自身が必要性を実感している実技研修のセミナー開催や、薬剤師の地域医療展開を促進させるためPBLチュートリアル等を年に数回開催する。また、新しく在宅チーム医療の展開に必要とされる指導力を含む教育プログラムを構築し、実践する。
● 留意事項 ・事業管理者における工程表の作成に当たっては、実施地域(地区)における医師会・薬剤師会との連携についても盛り込むこと。	工程表に、地域の医師会・薬剤師会との連携について記載いたしました。